

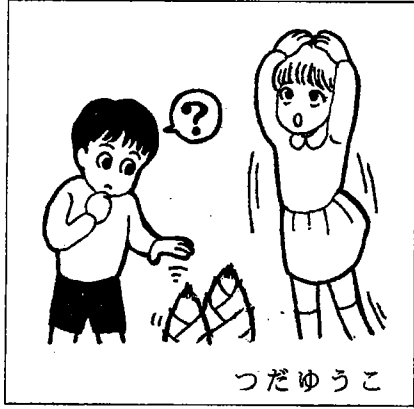
# 学校週五日制を迎えて

深小学校 藪本幸子

この四月に深小学校に来ましたが、来て思ったことは、子どもたちが素直で明るいという事です。就任式の日の校歌の歌声も大きく、伸びやかに育っているのだなと感心させられました。

さて、今年から学校は週五日制となりました。先日スーパーマーケットのレジに並んでいるとき、「毎週土日が休みだなんて困りますよね。」という声を聞きました。子どもたちが週に二日も家にいると世話が大変だということだろうと思いましたが、子育て期間は考へてみれば短いのですから、せっかくなの土日をもっと生かしてほしいなと思いました。

五日制のねらいは、ゆとりの中で子どもたちにさまざまな体験をさせて、「生きる力」を身につけさせるということです。さまざまな体験というのは、どこかへ出かけて楽しむという特別なことをさせているのではなく、家の手伝いをしたり、ゆ



つだゆうこ

っくり親子で話したり、地域の行事に参加したりと、子どもを経験を豊かにすることをいいます。

今年、深小学校には十八名の一年生が入学しました。深小に

とっては近年にない多人数の新生です。そして、新教育課程になって初めての一年生です。この子たちにとっては、土曜日に学校へ行っていたという話は遠い昔話のような感覚になることでしょう。

入学式の日、私は子どもたち

に、「『おはよう』『はい』『さようなら』と大きな声で言いましょう」と話しました。あいさつをすれば気持ちが良いというだけでなく、これからの時代に必要とされる「伝え合う力」の第一歩がはいさつだと思っからです。

そして、保護者の皆さんには「子どもの話をしっかり聞いてやって下さい。」とお願いしました。

どの子も伸びる力、伸びようとする力を内に持っています。子どもに媚びるのも甘やかすのでもなく、子どもの思いを聞くことで、子どもはその伸びる力を発揮できると思うのです。

週五日制を迎えて、親も子もゆとりが持てるようになればいいと思います。『そんなこと無理』という声も聞こえてきそうです。親子・家族・地域で、あいさつの声を交わし、ことばのキャッチボールができるといいですね。

終わりにになりましたが、地域の皆様の支えの中で教育は進みます。今後とも変わらぬ御協力をよろしくお願いいたします。

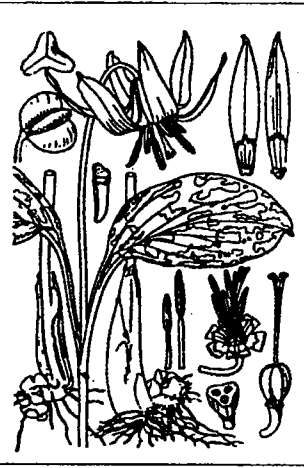
## 広島県の自然 (4)

深小学校 山田 義孝

### 「カタクリ」

春を彩る花の主役は、なんともいってもカタクリである。広島県ではいくつもの群生地が知られているが、この近辺では上下町国留の先谷群生地、野温泉近くの宇根地区、北部の河合地区群生地が有名である。古名はカタカゴ(堅香子)で「万葉集」に大伴家持が詠んだ歌があり、古くから人々に親しまれた植物の一つであることを示している。

その理由は可憐な姿は勿論のこと、山菜として葉や茎、花と株全体が食用になり、また、鱗茎から良質の澱粉がとれ、「片栗粉」として重用されたことにもよるだろう。古名のカタカゴは、傾いた籠状の花という意味があるといわれる。カタクリは「片栗」で、栗の子葉の一片に似る、という意味らしい。またカタクゴからカタコ、続いてカタクコリ、カ



タクリと変化したともいわれる。カタクリは典型的な虫媒花で昆虫が花粉を運んでくれないと種子はできない。花びらが大きく後方に反り返り下向きに咲くのは、受粉を確実にする構造ともいえる。蜜を吸いにきた昆虫は、花の奥から突き出た雌しべと雄しべの束にとまるため、花粉の交換が行われやすい。花は朝開き、夕方薄暗くなると閉じる。雨の日などは閉じたまま一日をすごす。

カタクリの種子は、アリ散布型の代表的なものの一つで、アリに嗜好性のある物質を多量に含むエライオソームとよばれる特別な付属体を備えており、林中に住む多数のアリを種子に引きつけ運びさせる。アリは巣に運びこんだ種子をなぜか再び丸ごと巣の外へ捨てる。アリはだまされて種子を運び、種子を散布したことになる。しかし、この過程で死亡する種子も少なくないはずである。春先に見られる実生の数は、前年に生産された種子数の十分の一にも満たないという。実生は一枚の小さな葉を出し

「おはよう」「はい」「さようなら」と大きな声で言いましょう」と話しました。あいさつをすれば気持ちが良いというだけでなく、これからの時代に必要とされる「伝え合う力」の第一歩がはいさつだと思っからです。

そして、保護者の皆さんには「子どもの話をしっかり聞いてやって下さい。」とお願いしました。

どの子も伸びる力、伸びようとする力を内に持っています。子どもに媚びるのも甘やかすのでもなく、子どもの思いを聞くことで、子どもはその伸びる力を発揮できると思うのです。

週五日制を迎えて、親も子もゆとりが持てるようになればいいと思います。『そんなこと無理』という声も聞こえてきそうです。親子・家族・地域で、あいさつの声を交わし、ことばのキャッチボールができるといいですね。

終わりにになりましたが、地域の皆様の支えの中で教育は進みます。今後とも変わらぬ御協力をよろしくお願いいたします。

### よろしくお願ひします

〇二年度(平成十四)深町の各方面でお世話をしていたたぐのは次の方々です。 敬称略。

- |          |        |
|----------|--------|
| 町内会連合会会長 | 梶谷 和伸  |
| 同 事務局局長  | 高崎 修   |
| 上組町内会会長  | 西本 一二三 |
| 中組町内会会長  | 広川 弘之  |
| 下組町内会会長  | 梶谷 和伸  |
| 深小PTA会長  | 天木 雅之  |
| 深消防団分団長  | 麓 正徳   |
| 尚寿会 会長   | 幸谷 満夫  |
| 深町女性会会長  | 沖西サカエ  |
| 子ども会 会長  | 小林 正美  |
| 深町民会館館長  | 梶谷 和伸  |
| 深小学校 校長  | 藪本 幸子  |
| 如水館高校校長  | 東風上 清剛 |

地下に鱗茎をつくって澱粉をたくわえる。これを七、八年繰り返して、葉が二枚になったころ花茎を出し花をつける。鱗茎は大きくなるに従って、地下深くもぐり、栄養価の高い澱粉を含む鱗茎は、ネズミなど小型ほ乳類のえさにもなる。年々深くもぐることによって難を逃れようとしていくのかも知れない。

広葉樹林の成立は約三千万年前といわれる。この時間の間にカタクリの祖先が落葉広葉樹林の中に現れ、しだいに現在見る姿へと進化してきたのである。春の短い期間に、生活に必要な養分を合成し、鱗茎にたくわえ、ゆっくりとした経年成長を経てやっとな開くカタクリに、賞賛の拍手をおくりたい。

謹んでお悔み申し上げます

★林 不二子様 八八歳 四月三日

深町各種団体五月行事予定

- ◆小学校・幼稚園
- ▼遠足(小・幼) 〇
- ▼聴力検査(小) 〇
- ▼参観日(小・幼) 〇
- ▼集金日(小) 〇
- ▼眼科検診(小・幼) 〇
- ▼内科検診(小・幼) 〇
- ▼修学旅行(小・幼) 一六・一七
- ▼英語学習(小) 二〇
- ▼お楽しみ会(幼) 二四
- ▼歯科検診・英語学習(小) 三〇

- ◆町内会
- ▼総会(連) 二〇
- ▼体育委員会(連) 二五

- ◆女性会
- ▼親睦会(上) 二〇
- ▼同(中) 二五
- ▼同(下) 三〇

- 深小学校学年担任教師
- |    |       |
|----|-------|
| 一年 | 本平 智子 |
| 二年 | 秋永 美絵 |
| 三年 | 石井 教  |
| 四年 | 大村 哲郎 |
| 五年 | 久保 伸子 |
| 六年 | 原 裕子  |



### 展望

「学級崩壊・軽くなった学校の存在・小学校なぜ荒れる」。「授業不可能・北海道のある教師の日誌から①トラブル多発②転校生で「秩序」崩れた③教室は無法地帯 一つに保護者に説明④「学級崩壊」暴れる子に策持たず」。以上は98年後半の新聞の切り抜きの一部です。最近学級崩壊という言葉はあまり耳にしなくなりましたが、その後改善されたのでしょうか。最近新聞等マスコミを賑わす話題は「虐待」です。全国の児童相談所が00年度に関与した件数は一七・七二五件で、加害者は実母一〇・八三三件でした。考えさせる数字です。▼不登校はどんな傾向にあるのでしょうか。00年度文部科学省が調べた全国統計では、一三万四千人と昨年八月に発表しました。少子化で児童・生徒数が減少しているのに、前年度より三・一%増えています。日常、児童・生徒に接している先生はその原因は掴んで居りますが、対応はされておらず、対応はされておらず、関係者が含められたもので、係者で策を講じてほしいものです。▼学級崩壊、いじめ、不登校等学校で処理出来ない事柄は前例に捕われぬ大胆な発想で対処しなければ、根絶することはないでしょう。その為には、問題の原因を掴んでいられ、教師に解決の主導的役割を引き受けてもらいたいものです。親や教師がフリーターの発想では問題は生き延びます。

# 御調坂物語 (2)

石井 静夫

## 四ツ堂

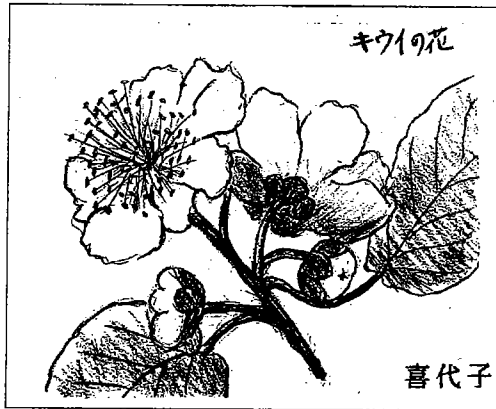
深からと美生からと登り切った所が御調坂の頂上で、村境の近くに辻堂がある。「堂さん」といわれ、通る人の誰れもが一休みする。

堂には六体の地藏(本尊は地獄・餓鬼・畜生・修羅・人間・天道の衆生の苦しみを救うといわれる地藏菩薩)が並ぶ。

奇怪だが、全部胴体だけで首がない。何故だか定かでない。古老の話では、そこを通る人の安全を祈ると共に、過を犯してはいけない、怪我があつてはいけない、元氣を出さず戒めの為、に胴体だけにしたという。

山頂の堂でも、本庄、美生の人々が清掃整備され、手入れがよく行き届いている。よくみると、負い子の荷をかつぎ易いようにする為か、床板を高くして

堂の横の草むらに、道しるべの石碑が立つ。明治三十三年(一九〇〇)青山氏寄贈で、左は尾道右は三原と刻む。百年余も前



だが、当時の屈強な若者達が、急坂な岩場を担ぎ上げたものだろう。

左尾道とは深、久山田、栗原を経て尾道へ至る道、右三原とは坂谷、太郎谷、中之町(当時は山中村)を経て三原へ至る道

るべ。

更に北に向かえば、険しい坂

## 歴史散策

### 田屋城主石原氏の末裔

高崎 壽郎

慶長五年(一六〇〇)天下分け目の関ヶ原の合戦は、木頃庄地頭職石原氏の運命を大きく変えたことは、以前に書いた通りである。

田屋城主石原太郎左衛門景信には嫡男彦右衛門景安のほかは次子八兵衛重為がいた。兄景安は下総の結城秀康(家康の次男)に仕え、弟重為は泉州岸和田藩に仕官した。

岸和田藩に石原氏の末裔が仕えたことを知らせてくださったのは、博学な郷土史家の岡崎明氏(木ノ庄町木門田)である。岡崎氏は、深郷土誌(昭和38年発行)にある、「石原八兵衛

重為一泉州岸和田城主岡部美濃守殿奉公(萩藩家普録)をみて、どうしても石原氏の子孫の消息が知りたいと思われ、過日同好の友とそれには、岸和田市長や関係者の協力が大きかったと聴く。

岸和田城主岡部氏は、徳川譜代の大名で、大阪ノ陣には、丹波亀山三万二千石の岡部長盛であつたが、寛永十七年(一六四〇)に子息の岡部宣勝が撰津高槻から岸和田藩主となり、六万石で入城した。

重為が岡部氏へ奉公する経緯は定かでないが、「岡部氏は以前より禄高が増大したから、宣勝の二十五年の在任中に、家臣の新規採用を行なったと思われ、石原八兵衛重為もその一人であろう」と推測されている。今、現代なら、運よく大企業

## 平成13年度尚寿会会計報告書

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
会費	112,500	運営費	73,341
補助金	51,600	会議費	(7,668)
助成金	50,000	旅費	(500)
寄付金	0	事務費	(14,030)
事業収入	0	慶弔費	(27,182)
雑収入	12,650	分租金	(10,000)
旅行負担金	122,776	雑費	(13,961)
前年度繰越金	316,036	活動費	351,563
		次年度繰越金	240,658
計	665,562	計	665,562

## 平成13年度子ども会会計報告書

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
繰越金	63,407	保険料	34,300
市子連助成金	0	海水浴	137,854
会費	10,000	創作大会	25,000
連内会助成金	150,000	送別会6年	45,194
PTA助成金	40,000	ソフト等	51,064
ゴミ処理券	78,360	諸費	5,000
廃品回収	6,150	その他	1,749
預金利子	16		
諸収入	5,000	次年度繰越金	52,772
計	352,933	計	352,933

## 深小学校だより

若葉が美しい季節になりました。四月に十八名のかわいい一年生を迎え、小学生七十七名の出発をしました。

今年の深小学校は、新しい活動を三つ入れていきます。まず、一つ目は英語教育、二つ目は読書タイム、三つ目は新しく形を変えたチャレンジタイムです。

## ありがとうございました

今回は、英語教育についてお知らせします。先生は、スーヅートセブイヤック先生です。一年・二年・三年は二週間ずつ、四年・五年・六年は一週間ずつ、年間三十五時間です。楽しみながら簡単な英語による会話や単語が書けるようになります。どの子どもたちも、この英語の時間に英語名を決めています。マリア、ジョーン、ハリソン、トム、クルーズ等、名前を呼び合っていると映画の中に見えるようです。

昭和三十四年十二月以降四二年間の長期にわたり、深町の家庭に新聞を届けて下さった原田章八さんが、この度体調を崩され第一線から退かれました。その節は深町の皆さんにたいへんお世話になったということ、退職金の一部を深町三町内会に各十万円寄付していただきました。

現在の騒がしい社会情勢の中にあつて、原田さん善意は一般の清涼剤です。誠にありがとうございました。

この小学校における英語教育に就職したというところでしようか。石原氏一族の名は、岸和田藩の年頭礼帳、御家人帳、藩士録、分限帳、知行・扶持・切米帳、備定、藩役録、名簿などに載っている。

査で、石原氏の分家が、明治に到まで岡部氏の岸和田藩に家臣として仕え続いていたことがわかった。

電話帳をみても、岸和田市には石原を姓とする家が四十戸もあるという。

の行動力にもあれ、岡崎氏のあり、石原氏の末裔の消息に深い関心を持っている者にとつては、感謝の一語である。

## お詫びと訂正

「ふかまちのまど」第九十五号に誤りがありましたので、お詫びをし訂正いたします。

入園予定者

- 正 西永 億幸
- 西シナガオクユキ
- 誤 西永 億幸
- ニシニガオクユキ